

## はじめに

近年のわが国の道路を取り巻く環境は、依然として多い交通事故、本格的少子・高齢社会の到来、投資余力の減退などの問題に直面し、さらには、道路に対するニーズの変化・多様化、ノーマライゼーションの浸透等が見られる状況にあります。

交通事故に関して言えば、近年、死亡事故は減少しつつあり、平成17年の交通事故による死者数は6,871人で、昭和31年以来49年ぶりに7千人を下回りました。しかしこの水準も欧米諸国と比較すると高い状態にあります。また、負傷者を含めた交通事故全体としての発生件数は、平成12年に90万件を超えた以降、横ばい傾向が続いています。平成17年の1年間で発生した交通事故は、933,828件、死傷者は、1,156,633人です。つまり、日本人の約100人に1人が、交通事故で死亡あるいは負傷しているということになり、道路交通の安全確保は、非常に重要な課題であります。また、本格的少子・高齢社会の到来に対し、平成12年度の交通バリアフリー法の制定にも見られるように、高齢者、身体障害者等にとって利用しやすい道路空間・構造の整備を従来にも増して進めていくことが求められています。さらには、少子・高齢社会の到来とともに投資余力の減少が見込まれる一方で、環境問題、都市再生問題などの社会的課題の変化とともに、道路の果たすべき役割は変化しており、都市・街・地域の活動を支える道路、安全に安心して利用できる道路などの多様なニーズの中で既存の道路空間を如何にして有効に利活用するかが重要となっています。

道路空間高度化研究室は、平成13年4月1日、国土技術政策総合研究所道路研究部の研究室として、このような道路を取り巻く時代の流れを踏まえた新たなテーマも含めて、調査・研究・開発に取り組み、交通安全をはじめとする道路の計画・設計・建設・維持・管理に関わる関係機関・関係者を技術的側面から支援すべく出発しました。この報告書は、研究室発足第5年目となる平成17年度に行った研究の報告、国内外の関係学協会による講演会や雑誌等で発表した研究論文を中心に、これまでの活動成果をまとめたものであり、本報告書が関係機関・関係者の業務推進において有益に活用いただければ幸甚です。

道路空間高度化研究室長  
岡 邦彦